

■第3回会議（7月8日）では、こんな話をしました

まず、6月4日（木）に開催された第1回市民参画協働懇話会の報告を受けました。次に、「市民が関わる取り組み調査シート」の集計結果について話し合いました。これは、4月に各部署に回答をお願いしたものです。

行政側と市民側が考える「協働」についての認識を統一し、共通の理解を深めるために、10月上旬頃開催される懇話会には、私たちワーキングメンバーも参加する予定です。調査シートの結果はメンバーで完成させ、市民活動団体を調査した市民協働アンケートの結果に関連付けて、このまちオリジナルの協働を調査・研究をしていきます。

ワーキングメンバーのつぶやき vol.②

つばやき人：中村幸恵（社会福祉課）

市職員として働く以外に、NPO団体で市民として活動しています。

仕事の時は市民に対して「自分勝手なことばかり言って…」「どうせお役所仕事しかできないと言われ一線を置かれてしまうんだろうな」と感じます。その一方、仕事以外の時は市職員に対して「前例がなくてできないと言う前に実際に動いてほしい」「市民だからと身構えたり、お客さん扱いしたりしないでほしい」と感じます。自分の都合のいいように、それぞれの立場で思っています（笑）。

どちらの立場でも『住みやすいまちにしたい!』という単純な思いがあるだけです。

思いは同じはずなのに、お互いの立場や思いを知らないことでおきている、すれ違いがある気がします。

市職員と市民が、悩みも喜びも苦しさも楽しさも、同じ人間として共有することができれば、どちらもハッピーになれるような住みよいまちづくりをできるかもしれない、「協働」をさがればその方向性がみえてくるかもしれない、と思いワーキングに入りました。

「協働」は今までと同じやり方ではなく、新しいやり方で挑戦し続けていくことでしか実現できないと感じます。新たな実践を積み重ねることで、長岡京市らしい協働のスタイルをつくっていければ、と考えています。



思いは同じ
はずなのに…

【協働ってな～あに？その②】

協働についての疑問・質問を、“長にゃん”が明快に答えます。



「協働」って昔からあったの？



長にゃん

1970年代から、神戸市などを中心に行政と市民の協働によるまちづくりが進められてきたのよ。でも、協働の意義が再確認される契機となったのは、1995年に起こった「阪神・淡路大震災」。この時は、警察や消防機関による救助が追いつかず、要救助者3万5000人のうち、2万7000人は自力または隣人の力を得て救助されたの。

この震災をきっかけに、神戸市では、地域全体の自律と連帯が必要だ！という認識が拡がり、また、多くの市町村にも、市民が行政とともに地域の問題解決に取り組む「協働のまちづくり」が波及していったのよ。

* 次回の市民参画協働ニュースは9月下旬に発行予定です。

* 協働に対する疑問・提案・思いなどは、お気軽に下記までお寄せください。

メールアドレス：shiminsankaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp